

沿革

1975 年 4月	映画監督・今村昌平が「既設のレールを走りたくない若者たち、常識の管理に甘んじたくない若者たちよ集まれ」と呼びかけ、『横浜放送映画専門学院』を横浜駅前に開校。学院長 今村昌平
1975 年 5月	今村昌平の理念の根幹となる「農村実習」が、福島県玉川村で開始。翌年から磐梯町・猪苗代町に移し、以後-30 年間行われた
1975 年 6月	マンツーマン指導による長編脚本(200枚脚本)実習開始、現在まで続く
1978 年 2月	東京・六本木「俳優座劇場」で、卒業公演「ええじゃないか」上演。外部劇場での卒業公演が始まる
1979 年 3月	映像総合誌「青」創刊
1979 年 12月	「十四番目の椅子」が、「第5回城戸賞」を受賞。以来多くの在学生のシナリオが各賞を受賞
1980 年 4月	今村昌平の「役者の発するセリフは、常にアドリブでなければならない」の持論により、演劇科で漫才授業が始まる。
1983 年 5月	今村昌平監督作品「楳山節考」第 36 回 カヌ国際映画祭パルム・ドール受賞。
1984 年 4月	留学生募集開始。アジアを始め、諸外国から映画を学ぶ学生を受け入れる。
1985 年 11月	学校法人神奈川映像学園が設立され、3 年制の専門学校とし、名称を『日本映画学校』に改める。神奈川県より設置認可
1986 年 4月	川崎市、小田急電鉄、映画会社等の協力により、川崎市新百合ヶ丘駅前に新校舎が完成。今村昌平 理事長・学校長に就任
1986 年 4月	日本映画学校開校記念 日本映画学校・A.T.G 共同作品「君は裸足の神を見たか」一般公開
1987 年 3月	東京「青山円形劇場」で、卒業公演「荒廃のカルテ」。同劇場での公演は、平成19年まで続く
1988 年 10月	東京・新宿「テアトル新宿」にて、第 1 回新宿映画祭主催、以後第 8 回まで続く
1989 年 4月	日本映画学校・日本ヘラルド映画共同作品「バナナシュート裁判」一般公開
1992 年 4月	石堂淑朗 学校長就任
1992 年 8月	日本映画学校・日本ヘラルド映画共同作品「福本耕平かく走りき」一般公開
1993 年 4月	理念の「人間に興味を持て」を実践する、フィールドワーク授業「人間研究」が始まる
1995 年 3月	卒業制作映画外部劇場上映会始まる
1995 年 10月	「第 1 回しんゆり映画祭」開催。日本映画学校全面協力のもと小田急線新百合ヶ丘駅周辺地域で毎年秋に行われる
1996 年 4月	佐藤忠男 学校長就任
1997 年 5月	今村昌平監督作品「うなぎ」第 50 回 カヌ国際映画祭パルム・ドール受賞
1999 年 1月	映像機関誌「日本映画学校だ」創刊
2000 年 10月	「ジュニア映画制作ワークショップ」をスタート 日本映画学校全面協力のもと中学生が映画制作体験する先駆的な取り組み始まる
2004 年 11月	佐藤忠男 理事長・学校長就任
2005 年 10月	創立30周年「同窓会」举行
2007 年 10月	佐々木史朗 理事長就任
2009 年 3月	横浜市開港 150 周年記念映画「3 つの港の物語」を北京電影学院、韓国フィルムアカデミーと共同制作
2010 年 3月	「日本映画大学」設置認可申請。
2010 年 4月	最終募集の日本映画学校25期生入学
2011 年 3月	東日本大震災
2011 年 4月	日本映画大学開学
2012 年 3月	日本映画学校 俳優科終了
2013 年 3月	日本映画学校閉校。映像機関誌「日本映画大学だ」創刊
2013 年 7月	「俳優大学～50 歳からはじめる俳優体験～」をスタート
8月	「日韓学生共同制作プロジェクト」をスタート。韓国芸術総合学校(K-Arts)と短編映画を制作、継続中
11月	台湾 国立台北芸術大学(TNUA)と学術交流協定を締結
2014 年 4月	中国 北京電影学院(BFA)と学術交流協定を締結
8月	「こども映画大学」映画づくり体験プログラムを実施、継続中
2015 年 2月	イオンシネマ新百合ヶ丘で第 1 回卒業制作上映会を開催、継続中
4月	インドネシア ジャカルタ芸術大学(IKJ)と学術交流協定を締結
2017 年 3月	昭和音楽大学および昭和音楽大学短期大学部と大学間の交流を推進する連携協定を締結 公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価において、大学評価基準に「適合」と認定
4月	天願大介 学長就任 佐藤忠男 名誉学長就任
10月	全ロシア映画大学(VGIK)と学術交流協定を締結
2018 年 4月	富山省吾 理事長就任
2024 年 3月	公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価において、大学評価基準に「適合」と認定